

取手駅 西口開発

膨らみ続けた区画整理 総事業費219億円 交通広場6月新装供用開始(予定)



手前にA街区再開発事業用地（現在仮説交通広場）
写真奥が工事中の駅前交通広場（3月15日撮影）

取手市 「複合公共施設整備方針」発表

市は、取手駅西口前に地権者組合が施行する「A街区再開発ビル」に図書館などを導入する「複合公共施設整備計画」を発表。計画は区画整理終了後のA街区（仮説交通広場）に25階建住宅棟と5階建非住宅棟（公共施設、店舗、駐車場）を配置するものです。

ビルの床購入に、40～45億円

今後市は、「複合公共施設」設置のための開発ビル床購入費と、再開発事業への補助金支出を合わせ、公金投入は約80億円（事業費全体の5割強）にも。

「駅前はきれいで賑わいを」は、市民誰もの願いですが、巨額の税金投入は問題です。

西口一極集中 市政にゆがみ

西口開発一極集中の市財政が、市民福祉の低下と生活基盤整備を後回しにしてきました。

生活基盤が悪ければ、駅前も賑わうことなく、取手に魅力も生まれません。まちづくりも予算の使い方も、市民の声を生かすことが大切です。

高層マンションに図書館で 駅前に賑わい？

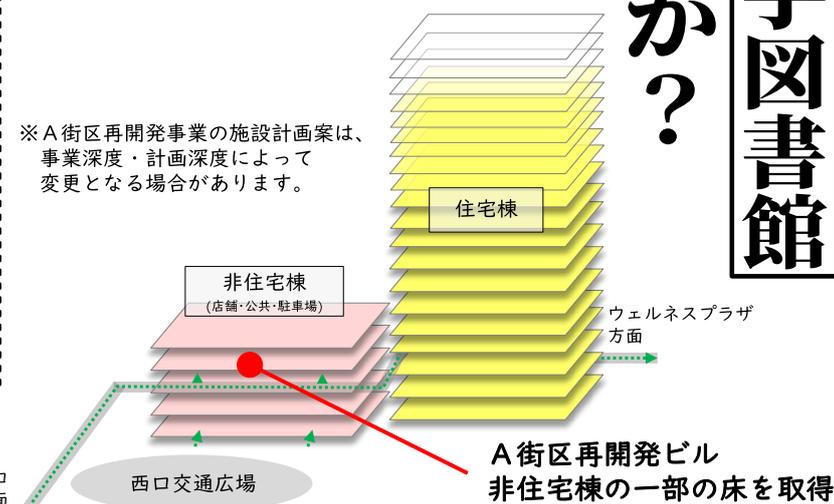
市は、A街区開発ビルへの図書館など複合公共施設の導入計画について、権利者の要望があり、その目的を「駅周辺の賑わい創出・まちの活性化を図る」ためとしています。

参加事業者は20人から8人に減少し、リボンビルやアトレ（駅ビル）など空きフロアはそのまま、図書館頼みの超高層マンション建設で駅周辺の活性化が図れるでしょうか？

民間再開発ビルに
床買って
取手図書館
あなたは
どう
思いますか？

A街区再開発事業計画概要（案）

※A街区再開発事業の施設計画案は、事業深度・計画深度によって変更となる場合があります。



■ 収支計画(概算)

総事業費 143億円

財源・再開発補助金 38億円 (5割国補助)
内訳・保留床処分金 105億円 (床売却益)

日本共産党

市議会報告&懇談会 4月13日(土)

10:00～12:00 久賀公民館

14:00～16:00 取手福祉交流センター
(市役所前)

階数： 1～5階
専有面積 7,100㎡
・店舗・駐車場 2,600㎡ (内訳不明)
・図書館等 4,000～4,500㎡
(市がビル床購入)
非住宅棟 (公共施設・店舗・駐車場)

階数： 2～25階
専有面積 14,000㎡
約200戸
住宅棟

全体
地上25階建て、延べ床面積 36,000㎡

(2月29日議員全員協議会資料より)